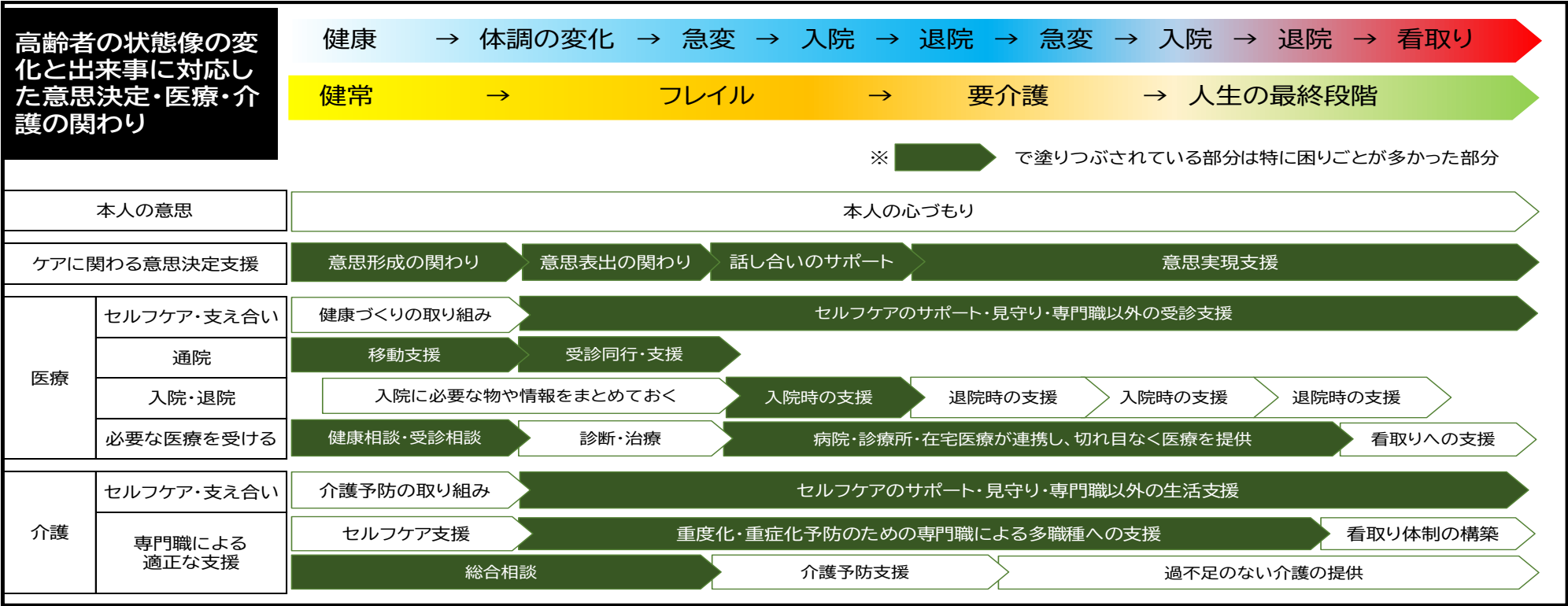


ヒアリング先	医療・介護関係39か所(関係機関、職能団体等)
アンケート先	ケアマネジャー73人(居宅介護支援事業所 他)

1 在宅医療・介護連携のあるべき姿

切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を構築するためには、**高齢者のライフサイクル**の中で起こりうる節目となる場面を意識した関わりができていくかということのほか、これら
を押しする環境が整っているかという視点で課題を整理することが必要とされています。

起こりうる 出来事を意識した関わりを、「**ケアに関わる意思決定支援**」と**整理したのが下の図**です。これは、医療・介護に関わる全ての専門職がそれぞれの立場から行うべきことであり、
また、医療や介護の専門職は限りあるものであることから、**セルフケアや支え合い(互助)を育てていく視点**も重要であることを含めて医療・介護の関わりを整理をしました。今後、更に
増加する医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者への支援を持続可能なものとするため、これらのあるべき姿を念頭に置き、課題を整理する必要があります。



2 4つの場面における問題点

在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面 ①**日常の療養支援** ②**入退院支援** ③**急変時の対応** ④**看取り** を意識した取り組みが必要とさ れ
ています。そこで、ヒアリング等で把握した4つ場面で起こっている問題を、**入院通院医療の関係機関「入院通院医療チーム」、在宅医療の関係機関を「在宅医療チーム」、介護ケアの関係機関「介
護チーム」**に分類し、意見をまとめて整理しました。なお、4つの場面および各チームは重なり合う関係です。

現時点で把握できている問題の背景を探り、対応策を検討するためには、**★今後さらにヒアリングやアンケート等の調査を実施する必要があります。**さらに、実効性の高い対応策の検討の
ためには、**★明らかになった課題をそれぞれの場面に関係する多職種・多機関で共有し、検討の場を設けることが必要と考えられます。(一次～三次連携)**

